暮らしの巣

住戸同士のスキマは共有空間となっている。

小さな家々（住戸）を大きな家が囲う構成をとっている。

景色の良い屋上は住人皆の屋外テラスに。

壁間はプライベートな屋外空間になっている。

壁で囲われた住戸はプライベートな居場所に。

適度な距離を取りながら住戸が配置されている。

01　ヒトの本能

これはある日の公園の写真だ。人々は適度な距離を取りながら陽の当たらない場所を選び、心地良い居場所をつくるといった人間の本能的な行為が見て取れる。かつての住宅も自分の身体スケールを単位にして居場所を作るといったように人の居場所は巣に近いようにして存在した。

機能や効率性が重視され、人の心と乖離しつつある住宅に対して今一度ヒトが生まれつき持っている本能に焦点を当てることで、建築がヒトの心と身に通じより豊かな生活を送ることができるのではないだろうか。

02　動物的な感性で暮らす家

集合住宅の現状

効率性を重視しした現代の集合住宅は住戸同士が隣り合うようにして配置されており、人間の本能的な居場所のつくり方とは乖離しており、どこか落ち着かない印象を受ける。

巣に近いようなヒトの居場所

人間の本能的な行為を設計に取り入れる。適度な距離を取りながら自分の居場所（家）を配置する。住戸は主に寝る、入浴といったプライベート性の高い行為を行う場とし最低限の大きさとする。

小さな家と大きな家

動物は母体に守られるようにして生まれてくるといったように、大きくなった今でも囲まれた場所には安心感を抱く。小さな住処を大きな家が覆うような構成をとることで、動物としての本能をよみがえらすような建築へ。2つの外皮で覆われた居場所は人の心と身体の安寧に繋がる。

03　断面計画

短手断面図　S=1/150